

デザインを心理学的な視点から考察する方法の 実践的応用に関する研究

千葉大学 大学院工学研究科 教授 日比野 治雄



科学研究費助成事業(科研費)

中心視と周辺視における色と形の知覚の特性 (1995-1996 基盤研究 (C))

視覚的ストレスの測定とその尺度化に関する心理物理学的研究 (1999 萌芽的研究)

医と食における安全・安心を目指す情報ユニバーサルデザインの創成 (2010-2012 基盤研究 (B))



図1 科学的根拠に基づいたデザインの実例1：ダイキン工業(株)と共同開発したエアコン用リモコン(2012年度グッドデザイン賞受賞、国際ユニヴァーサルデザイン協議会IAUDアワード2013プロダクトデザイン部門受賞)

デザイン心理学の実践的応用に関する研究(2015 共同研究:(株)BB STONEデザイン心理学研究所)



図2 科学的根拠に基づいたデザインの実例2：第一三共(株)と共同開発した造影剤オムニパークのパッケージデザイン(2014日本パッケージデザインコンテスト医薬品・医療品包装部門賞受賞)

デザインを心理学的な視点(特に知覚心理学の視点)から考察する研究に着目した。環境や製品全般を心理学の観点から扱い、その評価および改善・開発に資するための研究を進めている。

企業における商品開発の場において、人間の心理的な側面を考慮しないと、ユーザーの嗜好とは大きく離れたデザインをしてしまうことがある。

単純に大きな表示や操作ボタンが目立つなどと考えるのは作る側の一方的な思い込み過ぎない。従来は、そのような感性的な側面のみでのデザインがまかり通っていたが、今後は科学的な根拠に基づいたデザイン(evidence based design)が社会的にも求められるようになる。

このような問題意識から、これまで感性的に作成されていたデザインに、科学的な検証を加えることを提唱している。その流れで、実験心理学的な手法をデザインの評価に応用するという特許技術(特開2015-028800号)を基に、2009年には(株)BB STONEデザイン心理学研究所を起ち上げ(千葉大学発ベンチャー(第6号))、多くの大企業と共同して様々な分野での製品デザイン、空間デザインへの適用を図っている。実際、取り違えミスが起こりにくい薬剤包装、直感的に操作方法が理解できて素早く利用できるリモコンなど、科学的根拠に基づくデザインによる安全・安心や付加価値創出に貢献し、すでに多数の製品が様々な賞を受賞している(図1、2参照)。